13. 画像診療科

画像診療科部長　三浦亘智

帝国データバンクの調査によると民間が経営する「病院」約900法人のうち、2024年度の損益動向を調査した結果、本業である医療活動の利益を示す「営業損益」で、「赤字」経営だった病院の割合は61.0％だった。前年度（54.8％）に比べて6.2pt上昇し、過去20年で最悪水準となりました。開業医などの「診療所」（対象：約700法人）での割合は38.4％だったのに対し、病院経営の赤字割合は約1.6倍となっています。2024年度は診療報酬が+0.88％のプラス改定となった一方、新型コロナウイルス感染症関連補助金の終了、人件費や光熱費、医療材料費などのコスト上昇ペースが上回り、結果的に収益は増えても利益が減る「増収減益」に陥った病院が多く見られました。

飯塚病院画像診療科が行う検査（CT、MRI、RI、PET-CT）の件数は増加していますが、放射線科医のマンパワー不足や診断機器の老朽化が問題になっています。検査の精度やレポートの質を維持するためにも新しい機械、技術の導入が必要です。CTやMRIなど必要な台数は所有できていますが、古い機器も多く検査の精度を上げるためにも新しい機器への定期的な更新は必須です。また画像診断支援AIを活用し医師の読影・解析作業を効率化することも必要です。いずれも多額の費用がかかり、苦しい病院経営状況では簡単には改善できませんが、筑豊40万医療圏に質の高い検査を提供する事は飯塚病院画像診療科の使命であり何とか努力していきたいと考えています。

1）診療実績

（画像診療科で検査、報告書作成、及び 治療を施行した件数・症例数）

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
C　T	41,151	38,811	41,813	43,538	46,370
M　R　I	10,690	10,656	11,324	11,701	12,118
マンモグラフィ総検査件数	3,731	3,617	4,113	4,324	4,498
マンモグラフィ検査件数（ドック以外）	1,225	1,118	1,410	1,582	1,629
尿路造影検査	151	159	144	122	94
ＰＥＴ－ＣＴ	953	804	899	831	886
核医学検査（ＰＥＴ－ＣＴ以外）	1,142	935	732	710	633
ＩＶＲ・血管造影	374	339	355	338	383

2）IVR・血管造影の内訳

	2025 年
肝細胞癌の肝動脈化学塞栓術	68
出血性病変の止血術	72
気管支動脈塞栓術（BAE）	16
リンパ管造影	1
CT ガイド下生検・ドレナージ ※1	13
頭部血管造影 ※2	147
肝ラジオ波焼灼術 (RFA) ※3	55
その他	11
合計	383
緊急血管造影 ※4	71(18.5%)

※1 当科施行分
※2 脳神経外科施行
※3 肝臓内科施行
※4 当科施行分